

員諸氏の厚意を謝べし

右は小生の希望に候が、會員諸兄の御意見を求め此の目的を達し、會員組織の紀念と致し度候。

自由

小樽湖 畔 子

僕が繪畫に興味を持たのは二三年前であるが、墨繪に充分の研究なくして、たゞ彩色の美にあこがれて、水彩畫を學び初めたが、さて何んの得る所もなかつた。

譬へば基礎の薄弱な中に建てられた家は、一時其工事が捗どりしにもせよ、多少の風雨に逢へば、忽ち傾斜潰裂の厄を免かれぬと云ふ事を知りつゝ、例令自分は晩學にせよ、藝術なるものは極めて眞面目なもので浮調子で試みるべき閑地なく、而かも吾人傍業者が、繪畫を學ぶ目的が實に精神修養に外ならぬ事を思へば、其愚や笑ふべきである。

夫れで、自分に何事にも基礎と云ふ事に意を用ふると同時に、必らず何者かを其上に建設しなければ止めと云ふ精神を得たのである。

水彩畫に志しし

最初の動機

荒 美 生

「おい今水彩畫をやつて居るか」「やらない話せないなあ上手だらう」つて僕が中學の一年の時暑中休暇に歸省したら、兄が自筆の水彩畫を出しながらかう云つた「だつて來年からやるんだ」と云つたら、來年の事なんか云やあ鬼が笑うつて冷かした、此の時は一寸しやくにさはつた様な氣がしたけれど、これが僕をして水彩畫に志ざさしめた最初の動機であつた。其休暇後早々道具を揃えてやり初めた、今も尙熱心に研究して居る、そうして一年に三回の休暇に歸つて兄と二人で繪筆を取つて競技するのが何よりの樂しみだ。

正會員中臺枯星氏は豫て病氣の由聞及び居りしが、今回終に永眠せられし由。本會は同氏の如き前途有望なる青年を喪ひしを悲み、茲に謹で弔位を表す。猶田氏令兄より本會主任によせられたる書面は左の如し

肅啓 嘗て先生が御薰陶に浴し居候家第枯星儀永々病氣の處昨二十日午後十時遂に死去仕候

多年先生が御懇篤なる御芳情を蒙り、御書に接する毎に常に感位隨喜いたし、本年は是非共上京して拜姿を遂げ親しく醫咳に接するの榮を得ん志望を抱きつゝ、昨年初冬の頃より病中に呻吟する身と相成、せめては尊影なと頂載致し度申居候折柄「みづゑ」の上に尊容の掲載ありし時須更病苦を忘れて微笑を洩らし居候、如何なる宿縁に候やら、先生の事と申せば殆ど寢食を忘るゝ迄に御高風を追慕致し居候、多少畫筆を握りて紙絹へ塗抹し得る様に相成候も、全く先生御懇情に起因するものと本人も常に申居小生の如きも感謝罷在候次第、然るに拜眉の榮を得ず今回溘焉として黄泉に逝く、亡弟の遺憾察するに餘りあり候。みづゑ誌友未知の方々より澤山芳情に接し居候も物故せる今日一々芳名宿町等判明致さず候に付、先生より誌上に死去の事御掲載給はり度、中上兼候條件ながら 骨肉の眞情御汲取被下度奉懇願候。兼て先生より賜はりし繪はがきは、畢生の至寶として未期迄珍藏いたし居候 下略)

四月二十一日

枯星の兄中臺藤吉